

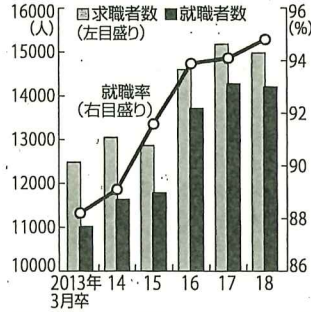
採用攻勢 初任給アップも

就職選考解禁

2019年春入社の就職採用活動で、面接や筆記試験などの選考活動が6月1日に解禁される。人手不足や少子化で学生に有利な「売り手市場」が続く中、企業の採用環境は一段と厳しさを増している。企業側は、待遇改善やインターンシップ(就業体験)の充実などを学生にアピールしている。

(松田拓也、平井翔子)

◆道内大卒者の就職状況



中小は既に活動ピーク

■銀行離れ?

経団連は来春入社組の採用活動について、会社説明会を3月、面接などの選考活動を6月解禁とする指針を示している。道内企業では北海道銀行や北海道電力、北海道ガスなどが6月1日に選考活動を開始す

る。

就職先として根強い人気を誇ってきた銀行は、長引く超低金利環境で先行き不透明感が強まり、かつての勢いに陰りも見られる。道銀でも内定後に「仕事内容が理想と違う」と辞退する学生もいるという。道銀は昨年導入したインター

■待遇改善

経団連の指針に縛られない道内の中小企業などは、既に選考活動のピークを迎えている。知名度や人気で

■競争激化

北海道労働局によると、道内の大学を今春卒業した

かなわない大手企業に対し、独自の取り組みで攻勢をかける。

通信販売会社の「北の達人コーポレーション」(札幌市)は、新卒の大卒初任給を36%(9万円)引き上げて34万円にした。年収で108万円増える計算で、待遇改善によって、奨学金の返済を抱える学生などの関心をひきたい考えた。

ドライバート不足に苦しむ北海道中央バス(小樽市)も待遇改善に取り組み。入社から3年間は賞与や休日数などで正社員と差がある「準社員」として扱ってきたが、今春の入社組から正社員に統一した。担当者は「地方でも安定した就職場所があることをアピールしたい」と力を込める。

学生の就職率は94.8%となり、過去最高を記録した。売り手市場の学生には余裕が漂う。民間企業への就職希望者が9割を占める小樽商科大のキャリア支援室では、就活に関する相談件数が前年比で3割減った。工藤賢明室長(55)は「大手解禁前に中小企業の内々定をもらい、焦らず就活を進めら

だ。就活している学生が増えている」と指摘する。

大手企業の選考解禁を受け、大手と中小による学生の奪い合いも激化しそうだ。